

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194300026		
法人名	株式会社 はなしのぶ		
事業所名	グループホームはなしのぶ (1号館ユニット)		
所在地	北海道釧路郡釧路町別保9丁目28番地		
自己評価作成日	令和3年8月9日	評価結果市町村受理日	令和3年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自然に恵まれた広い環境を活かし暖かい日は外気浴・散歩・畑での作物作りや入居者様ときれいな花を育てたり、バーベキュー・流しそうめんなど、はなしのぶの環境だからこそ出来る楽しみがあり職員も含め笑顔、笑いが溢れ自由に楽しめているホームです。

コロナ禍においても外食レクをテイクアウトに、外出をドライブなどに、職員一丸となり安心・安全に楽しんで頂いています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=0194300026-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和3年11月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カード化した事業所の基本理念を各自持ち確認をおこなっている。出勤時、壁に掲げている基本理念・ケア理念を目視し実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、交流はできていないが時々、町内の方々に気にかけていただきお花や野菜など頂いております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアを受け入れしたくさんのコミュニケーションを図ることにより認知症の人への理解を深めてきたがコロナ禍の為、現在はできてない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し通信による日々の生活状況報告、意見を聞き取りより良いサービスの向上につなげていたがコロナ禍にて書面開催での実施となっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談事項などあった際は都度相談させていただき助言、指導をいただいている。又、ケア向上における研修資料など情報提供もいただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員が主となりミーティング時に話し合い、勉強会を通し未然に防ぐ為のケア方針を検討している。又、施設の指針、マニュアルの整備、見直しを行いスタッフが把握できる環境を整えている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修へ参加しその内容を報告会にて発表し共有していたがコロナ禍の為、施設内で虐待に関連する資料を用意しミーティング時に学び、話し合い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町民後見人養成講座に関する体験学習、実習生の受け入れをおこなっている。施設外研修へは参加できていないが後見人がついでの方の状況報告を適時おこなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時において家族、ご本人等に契約内容、重要事項説明書、運営規定部分等含め説明、理解を得たうえで署名、印をいただいている。法改正後においても変更部分の同意書も必要に応じおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度に関しては、家族会、運営推進会議においてコロナ禍の為、書面開催をしているが相談窓口の設置、家族様が来所された際など意見や要望に傾聴しケア等に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているミーティング時において提案できる環境作りをおこなっている。又、個別面談をおこない意見、要望等を聞き取る場面も設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力、勤務状況の把握に努め労働時間や給料内容を検討している。職場環境では施設に必要な備品、設備の聞き取り、購入、労働条件の希望等聞き取りやすい環境を整えられるよう心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度に関しては新型コロナウイルス感染症の関係により施設外研修にはなかなか参加できていない。施設外研修に参加した際には報告会を行っている。又、ミーティング時において勉強会をおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	道東ブロックのグループホーム協議会へ入会し研修案内等の情報をいただいている。又、釧路町保健福祉策定委員会や食育連携委員を行い他事業所との合同事業への協力をおこなっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の表情や会話から感じ取りコミュニケーションの中からご本人の困っている事、不安などを傾聴し会話等を通し安心した生活が送れるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、要望を把握するよう努めしっかりと納得するまでの関係作りをおこない安心してサービス利用開始ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様の要望、状況を見極め担当ケアマネージャーや地域包括支援センター居宅介護支援事業所等から情報をいただき連携を図りながら必要な支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と共に生活していることを基本に台所仕事(調理作業など)や清掃作業等を手伝っていただきお互いを尊重し合い「ありがとう」を言い合える関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会にこられた際には家族様との交流も含めお互いに情報交換を行い生活を支える重要性を伝え理解を深め良い関係性作りを努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みの人などの面会、電話等はご本人の希望に沿うよう努めていたが、コロナ禍の為、面会や馴染みの店へ出かける事が難しく電話やお手紙等で対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握すると共に何か不具合がありそうな時は職員が直ぐ間に入り交流の支援に努め交流の援助に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後においてもご家族様が困る事のないよう相談や必要な情報提供などの支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や表情、ご本人の思いを引き出せるよう心掛けている。医療、福祉関係者からの情報収集も同時におこない個々にあった生活ができるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取り調査、ご家族や知人、担当ケアマネージャーなどから情報収集を行い抵抗なく入居につながるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、記録やミーティング等一人一人の変化に応じ随時対応できるよう状態に把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング時に状況報告、モニタリングを行い定期的、状況変化に応じ現場の意見を取り入れた介護計画の作成、反映をおこなっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の状態を個人記録に記入、申し送り、ミーティングなどで情報共有し介護計画の見直し、作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族の要望に応えられるよう通院介助や送迎対応、買い物など可能な限り希望に沿えるよう柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前は地域ボランティア、町内会イベントの参加を行い交流を深めていたが現在は様々な行事などが中止となり地域の方々との交流機会が減っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段の様子を観察し特変があった場合、速やかに受診できるよう医師との連携をとり病状によっては、かかりつけ医院の支持を仰ぎながら専門病院に受診できるよう努めている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護サービスを利用し気になる事を報告、相談をおこないアドバイスを頂いている。又、看護師の気づきを日頃のケアに活かしている。(浮腫み防止の対応方法や軟膏処置方法など)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中の面会に関してはコロナ禍の為、できない場合もあるが病院側と電話での状態報告、退院後の施設側対応方針など話し合いご本人様が安心して治療を受けられるよう支援している。その際には都度、ご家族様へも報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時には施設の看取りケアに係る指針の説明、事前調書を行っている。看取りケア契約時には担当医師も交えインフォームドコンセント、状態説明、施設側対応の方向性を話し合い関係機関と連携を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の際のマニュアルを用意し職員への周知、応急処置の講習、AED使用方法の勉強会をおこないざとという時に備えている。現在はコロナ禍の為、施設内で定期的に再確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練の実施、停電時、風水害におけるマニュアルの整備を行い職員が把握できる体制をとっている。又、福祉避難所としての役割を補っている。備蓄品の管理体制含め定期的に確認を実施。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重、理解し寄り添った声掛けに努めている。トイレ誘導時等の際は周りの方にわからないよう配慮するなど誇り、プライバシー管理にも気を付け対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションを大切にし何気ない会話の中でご本人の思いや希望を聞き取り遠慮なく意見などを表せられるよう働きかけ自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて体調、その日の気分に配慮し無理のないよう希望に沿い散歩や外気浴、農園作業など行っている。買い物に関しては現在、コロナ禍の為、できていない。職員が聞き取り購入している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1回のペースにて施設で髪をカットしていただいている。服装に関しても季節に合ったその方の好まれる服を選んでいただいている。愛用されている化粧品のご用意など。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何気ない会話の中で好きな食べ物や食べたい物など意見を聞き取りできるだけメニューに反映させている。調理作業と一緒に役割を見だせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量をチェックし不足な方には希望に沿った飲み物を個別に提供している。又、刻み食やトロミを使用したりとその方の嚥下状態、食事バランスを話し合い提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご本人の状態に合わせた口腔ケア介助の実施。必要に応じ協力歯科医院による訪問歯科診療を行い口腔ケアに努めている。又口腔ケア指導を受けケアに反映させている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意の排泄パターンの把握、時間をみながら定期的なトイレ誘導を行い自立排泄に向けた排泄支援をおこなっている。又、立位が困難な方に対しては二人介助にてトイレでの排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動や起床時における乳製品の摂取などを行い食事に関しては食物繊維がとれるよう支援、更に便秘傾向にある方に対しては医師へ相談し下剤の調整にて促しをおこなっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2～3回のペースに入浴を実施。ご本人の希望に合わせて同性介助を望まれる方に関しては希望に沿ったスタッフが対応している。入浴剤の使用や冬至の際のゆず湯など入浴を楽しむ事ができるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムや体調面に合わせ室温や湿度など調整し気持ちよく眠れるよう支援している。又、日中の運動量を考えたり外気浴なども行い夜間の良眠へつなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診療報告書など都度職員が周知し内服時には職員間で声をかけ合い誤薬防止に努め必要に応じ提携薬局の薬剤師より説明などをいただきながら連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ役割を持ちお手伝いをしていただくことにより張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。又、カラオケやドライブ・映画鑑賞など日頃から気分転換が出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍の為、ショッピングや外食はできていないが人ごみを避け外気浴や天気などの様子を見てドライブに出かけたりと臨機応変に対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの買い物に同行したり皆様との外出(ショッピング)にてご自分のほしい物を購入できるよう支援していたが現在は、コロナ禍の為外出ができず広い敷地やデイルームを活かし楽しめる支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍の為、なかなか面会ができない中、ご希望に沿い電話をかけたり、ご本人様の作品(折り紙など)や写真、自筆(代筆)の手紙を書きお送りさせていただく場面を設けている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた行事の際、一緒に作品を作り壁に掲示するなどし出来上がった達成感も含め入居者様と一緒に、居心地良く過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食席で気の合った入居者様同士が思い思いに過ごせるよう安全で安心な空間を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お仏壇や思い出のある物を持参され家族様、ご本人様と相談をおこないながら居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	出来る事やわかる事を活かす為、トイレやお風呂等矢印や名前を掲示、福祉用具を活かし出来る限り自立に向けた安心・安全の生活を送っていただけるよう心がけている。		